

## 昇 曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅰ〕

長谷部 宗吉 編

はじめに

[編者覚書]

昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅰ〕

はじめに

昇曙夢（本名：昇直隆）は明治 11（1878）年 7 月 17 日、鹿児島県大島郡実久村字芝（現・瀬戸内町芝）にて出生、昭和 33（1958）年 11 月 22 日鎌倉にて逝去、80 歳であった。

昇曙夢について外川継男氏（元北海道大学教授・上智大学名誉教授）は次のように評している。

「明治、大正、昭和の三代にわたって、わが国のロシア研究者のなかでも、昇曙夢ほど多くの著書や論文を著わしてきた者はいないであろう。しかも彼が扱った分野は、ひとり文学のみならず、社会、民族、フォークロアから政治、軍事に及んでおり、その仕事は、第二次大戦後わが国で「地域研究」の一環としてアメリカから輸入されたロシア研究の先駆けをなすものということができる。それにもかかわらず、今日では昇曙夢の仕事は若い人びとによって、ほとんど完全に忘れ去られ（後略）」ている。（「昇曙夢とロシアをめぐって（一）」「えうゐ」14 1985 年 12 月 25 日 67 頁）

平成 19（2007）年 5 月 29 日、北海道新聞（夕刊）に沼野充義氏（東京大学文学部教授）の以下の一文が掲載された。「今も続く世界へ

の努力（時評－文芸）」と題された文芸時評の導入部分である。

「この文芸時評は、奄美大島で書き始めている。東京の喧騒を離れてここまでやって来たのは、昇曙夢（1878－1958年）という奄美出身のロシア文学者の業績を顕彰するシンポジウムに出席するためだ。昇は加計呂麻島に生まれ（島尾ミホの出身地でもある）、上京してロシア正教の神学校に学び、ロシア文学を古典から最先端まで読破、研究と翻訳で当時の日本の読書界に大きな影響を与えた。他方、彼は奄美の郷土史でも金字塔となるような浩瀚な研究書を書き上げている。

「周縁」の島にルーツをしっかりと残しながら、文化の中心、東京に躍り出て活躍し、しかも日本の境界をはるかに越えて、世界文学の核心を素手でつかみとった昇の生涯を思い起こすと、明治の先人の巨大なエネルギーにあらためて感嘆せざるをえない。それと同時に、島から世界への回路を切り拓くビジョンを求めて奮闘しているということでは、じつは、いまの日本文学もたいして違いはない、いや、昇の生涯こそは近代日本の原点ではないか、とも思えてくる。」

「昇曙夢歿後50年を偲ぶシンポジウム」は2007年5月19日、奄美市内のホテルで開催された。同日の午前には「島尾敏雄シンポジウム」も同じ会場で開催されている。同シンポジウムなどの概要は「南海日日新聞」の2007年5月20、21日の記事によって知ることができる（<http://www.nankainn.com/kiji/back07-0519-0525.htm>）。

シンポジウムの第Ⅰ部は「昇曙夢のロシア文学者（ロシア学全般）としての功績を語る」と題されて行われた（司会：和田芳英、パネリスト：沼野充義、中本信幸神奈川大学名誉教授、加藤百合）。パネリストとして参加された加藤百合筑波大学准教授はその報告をもとに次の論文を発表されている。「明治期露西亜文学翻訳論攷（六）－森鷗外・昇曙夢（「重訳」と「風土」）」（「文藝言語研究：文藝篇」（筑波

大学大学院人文社会科学研究所文芸・言語専攻) 52 巻 2007 年 10 月 31 日 148-105 頁)

また、昇曙夢研究家、和田芳英氏は長年の諸論考をまとめ『ロシア文学者昇曙夢 & 芥川龍之介論考』(大阪 和泉書院 2001 年 11 月 25 日) を出版された。唯一の昇曙夢研究書である。この中には昇曙夢の著作年譜を比較検討された詳細な「昇曙夢著訳書年譜考」(45-85 頁) がある。単行書などの書誌としては大変貴重なものであり、本稿においても多々参考にさせていただいた。同書の中で同氏は「三種の自伝年譜についての疑問」において下記のように述べている。

「但し、曙夢自身による三種の自伝年譜は豪放磊落な彼の性格の故か、又、仕事の量があまりにも多い理由によるのか、それぞれの年譜に記憶違いや誤記、誤植、脱落がしばしば散見され、厳正さに欠ける。著者の調査によりその幾分かは補訂できたのであるが、何分、彼の仕事は膨大で多岐にわたっているので遺漏も多いと思われる。原資料の収集と詳細な年譜・書誌の作成は昇曙夢の全集や選集、評伝が皆無の現段階では必要不可欠な作業であろう。」(同書 12 頁)

本稿はロシア文学者として著名な昇曙夢の著作を年代順に跡づける試みである。昇曙夢の単行書の書誌については上述した和田芳英氏の労作がある。しかし、本稿は昇の新聞、雑誌に掲載された論文、翻訳、講演及び単行書、単行書に掲載された論文等を年代順に跡づける試みである。単行書には収録されていない著作も含め昇の仕事の全体像を可能な限り把握し、「昇曙夢再評価」の資料の一助となればと考える次第である。

〔編者覚書〕

1. 昇曙夢著作年譜（稿）〔I〕は、明治33（1900）年から大正元（1912）年の明治期を収録対象としている。大正期以降については順次調査・発表を進めてゆく予定である。
2. きちんとした凡例は掲げなかったが、排列は発表年月日の順である。同一年月日の場合は「単行書」「単行書収録論文・雑誌論文・新聞記事」の順で並べた。同一年月日の雑誌論文などは誌（紙）名の五十音順で排列した。日付不明の場合は同一年月の初めに置いた。
3. 採録にあたっては可能な限り現物、コピー、マイクロフィルムなどで確認した。確認できなかったものについては「（未見）」と最初に置いた。また、「（訳）」、「（編）」、「（監修）」、「（談）」、などの責任表示も同様に最初に置いた。昇曙夢自身の著作については著者表示を省略した。本名「昇直隆」名で発表したものについてはこれを表記した。
4. 叢書名（シリーズ名）は『（書名）』の後に入れた。巻号、頁数などが不明の場合は判明した情報のみを記載した。なお、収録頁数（新聞の場合は面）は発行年月日の括弧の前においた。
5. 現在ではネット上のデータベースなどにより雑誌の復刻版情報などが判明するのでこれを省略した。また国立国会図書館の請求記号、同館の近代デジタルライブラリー収録情報、J P ナンバーなどもこれを省略した。
6. 「はじめに」に記したように、昇曙夢の仕事は多岐に渡っており、その活動を完璧には網羅できない。特にロシア語学習書、奄美復帰運動関係のもの、また中国語訳などの外国語訳情報あるいはロシア正教関係の著作、無署名の新聞記事などは未だ十分に把握できていない。さらに、誤りなども多々あると思われるのでご教示いただければ幸いである。
7. 調査に当たっては、種々の書誌、文献目録、索引などを利用させていただいた。先輩諸氏の地道なお仕事に敬意を表したい。
8. この著作年譜の作成にあたっては多くの方々、機関のご協力をいただいた。とりわけ札幌大学図書館の多大な協力を得て成り立っている。こうした調査は図書館司書の方々の協力が欠かせない。厚く感謝するとともに、これまで同様に今後も協力をお願い致したい。

## 昇 曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅰ〕

### 明治 33（1900）年

＊ 「日本國民の性質」 昇直隆著

新聲 3 編 5 号, 390-394 (1900.4.25)

（注）懸賞論文の第一等（賞、金五圓）

### 明治 34（1901）年

（未見）「品性の修養」 昇直隆著

使命新報 27 号, (1901.4.5)

（注）「裏錦」102 号（1901.4.15）の広告による。所蔵館不明のため未見。

（未見）「品性の修養（二）」 昇直隆著

使命新報 28 号, (1901.5.5)

（注）「裏錦」103 号（1901.5.15）の広告による。所蔵館不明のため未見。

（未見）「品性の修養（三）」 昇直隆著

使命新報 29 号, (1901.6.5)

（注）「裏錦」104 号（1901.6.15）の広告による。所蔵館不明のため未見。

（未見）「社會と個人（論説）」 昇直隆著

使命新報 32 号, (1901.8.5)

（注）「裏錦」106 号（1901.8.15）の広告による。所蔵館不明のため未見。

（未見）「東北行（徒歩旅行葉信）」 昇直隆、吉田雄吉、森 謙著

使命新報 32 号, (1901.8.5)

（注）「裏錦」106 号（1901.8.15）の広告による。所蔵館不明のため未見。

「裏錦」105 号（1901.7.15）の使命新報の広告には次のようにある。

「▲次號豫告 正教神學校総長及校長の許可を得て徒歩旅行の壯舉を

企てたる左記の諸氏に本社は葉書通信を囑託せり」として東北行に三名の名がある。昇曙夢は「ワリシリイ昇直隆君」とある。また、東北行は「上州より足尾を超え下野磐城を経て磐梯猪苗代を跋渉し仙臺松島に遊び常陸下総を歸路に取る」とある。西方行の説明の後に「東西より来る日々の葉信は輯めて第卅一号に現はれんとす刮目して待たれよ○沿道の我愛讀者は此旅行者に十分の便宜を供せられん〔こ〕とを望む」とあるが31号の確認は出来ていない。

（未見）「東北行（徒歩旅行葉信）」昇直隆、吉田雄吉、森 謙著

使命新報 33号, (1901.9.5)

（注）「裏錦」107号（1901.9.15）の広告による。所蔵館不明のため未見。

## 明治 35（1902）年

（未見）「靈魂不滅の徳義に及ぼす影響」昇直隆著

使命（使命社）37号, 9-11（1902.1.5）

（注）国立国会図書館にて所蔵しているが資料破損、利用不可のため未見。

（未見）「雷雨」ゴンチャロフ原作 曙夢生譯

使命（使命社）37号, 15-18（1902.1.5）

（注）国立国会図書館にて所蔵しているが資料破損、利用不可のため未見。

\* 「露國文豪ニコライ、ゴゴリ（一）（史傳）」

使命（使命社）40号, 10-13（1902.4.5）

内容：年少時代のゴゴリ

\* 「露國文豪ゴゴリ（二）（史傳）」

使命（使命社）41号, 8-11（1902.5.17）

内容：ペテルブルグに於けるゴゴリ

\* 「露國文豪ゴゴリ（三）（史傳）」

使命（使命社）42号, 13-19（1902.6）

内容：ゴゴリの創作 其一

\* 「薩南大島の話（論説及報告）」昇直隆著

東京人類學會雜誌 17 卷 195 号, 343-369

(1902.6.20)

内容：一、地理的狀況 二、歴史 三、人種 四、土民の性質、生業及び産物 五、言語 六、風習 七、階級 八、服制、風俗 九、家屋 十、器具 十一、歌謠、芝居及び遊戯 十二、節句（注・羽衣傳説の記載あり）十三、結婚 十四、葬式 十五、墓地 十六、宗教 十七、祭禮（神事） 十八、神官の階級及び其起源 十九、考古學上の事實

\* 「氣質と徳行（論説）」昇直隆著

使命（使命社）44 号, 5-9 (1902.9.5)

\* 「蒼茫觀（文苑）」曙夢生著

使命（使命社）44 号, 17-19 (1902.9.5)

\* 「蒼茫觀（續）（文藻）」

使命（使命社）45 号, 19-21 (1902.10.5)

\* 「旅衫餘香（思叢）」使命（使命社）46 号, 8-11 (1902.11.21)

(訳) 「歴史上に於けるハリストス教の地位（雜録）」昇直隆

正教新報 529 号, 7-10 (1902.12.15)

(注) (本稿はペテルブルグのエム・メルクセフ社最近の發行に係る『宗教と文明』中の一論文を譯出せるものなり) と冒頭にあり。

\* 「薩南大島に於ける節句、儀式及び遊戯（論説及報告）」昇直隆著

東京人類學會雜誌 18 卷 201 号, 105-110

(1902.12.20)

(注) 冒頭に 17 卷 195 号「薩南大島の話」中の節句の部を参照せよとあり、また、末尾に未完とある。

## 明治 36 (1903) 年

\* 「露國文豪ゴーゴリ（四）（史傳）」

使命（使命社）47 号, 13-18 (1903.1)

内容：ゴーゴリの創作 其二

- (訳) 「歴史上に於けるハリストス教の地位（前々號續）（雜録）」昇直隆  
正教新報 531号, 13-16 (1903.1.15)
- (訳) 「春の宵（ゴーゴリ小品より）（雜録）」  
新小説 8年2巻, 171 (1903.2.1)
- \* 「樗牛高山博士を悼む（論説）」  
使命（使命社）48号, 9-15 (1903.2.20)
- \* 「露國文豪ゴーゴリ（五）（史傳）」  
使命（使命社）48号, 19-21 (1903.2.20)  
内容：ゴーゴリと其社會
- \* 「由井ヶ濱の月（一月十二日湘南に於て）（文藻）」  
使命（使命社）48号, 22-23 (1903.2.20)
- \* 「雪のあけぼの 一名 駿臺のながめ、二月四日同學窓に於て（文藻）」  
使命（使命社）48号, 23-26 (1903.2.20)
- (訳) 「歴史上に於け[る]ハリストス教の地位（雜録）」昇直隆  
正教新報 534号, 8-11 (1903.3.1)
- \* 「露國文豪ゴーゴリ（六）（史傳）」  
使命（使命社）50号, 19-25 (1903.4)  
内容：漂零の愁客
- (訳) 「歴史上に於け[る]ハリストス教の地位（承前）（雜録）」昇直隆  
正教新報 536号, 13-16 (1903.4.1)
- (訳) 「生命（ゴーゴリ小品より）（雜録）」  
新小説 8年5巻, 143-145 (1903.5.1)
- \* 「定理（ドークマ）非發展論（雜録）」昇直隆著  
正教新報 538号, 10-12 (1903.5.1)
- (訳) 「歴史上に於けるハリストス教の地位（雜録）」昇直隆  
正教新報 539号, 9-13 (1903.5.15)
- (訳) 「歴史上に於けるハリストス教の地位（承前）（雜録）」昇直隆  
正教新報 541号, 9-10 (1903.6.15)
- (訳) 「歴史上に於けるハリストス教の地位（完）（雜録）」昇直隆  
正教新報 542号, 11-13 (1903.7.1)



(訳) 「母の涙 (ゴーゴリ小品より) (雑録)」

新小説 8年9巻, 183-186 (1903.8.1)

(注) 末尾に (『タラスブーリバ』 中の一節) とあり

\* 「露國文豪ゴーゴリ (七) (史傳)」

使命 (使命社) 52号, 9-11 (1903.8.13)

内容: 心的煩悶の前兆

\* 「露國文豪ゴーゴリ (八) (史傳)」

使命 (使命社) 53号, 9-14 (1903.10)

内容: 『死靈魂』 第一巻

\* 「プシキン論 (雑録)」

新小説 8年11巻, 193-199 (1903.10.1)

\* 「露國文豪ゴーゴリ (九) (史傳)」

使命 (使命社) 54号, 14-17 (1903.11)

\* 「露國文豪ゴーゴリ (十) (史傳)」

使命 (使命社) 55号, 17-20 (1903.12)

内容: ゴーゴリの生活と病的傾向

(訳) 『宗教と自然美』 [昇曙夢等訳] 山田藏太郎編 東京 正教青年会

1903.12.5 10, 2, 2, 146p 19cm 発売: 使命社

ウォスクレスノエ・チテニエの抄訳

内容: 序 (昇曙夢著 pp.1-10)、例言 (山田藏太郎著 pp.1-2)、目次 (pp.1-2) 自然と人生 (pp.1-9)、枯木 (pp.10-13)、我か年は蛛網の如し (pp.14-18)、百合 (pp.19-33)、黒一點の豆大球 (pp.34-45)、天は神の光榮を傳ふ (pp.46-48)、光あれ (pp.49-57)、幽微なる元素 (pp.58-64)、蒼海の美 (pp.65-67)、人は何物 (pp.68-74)、髑髏 (pp.75-80)、死の海 (pp.80-87)、夕暮の歌 (pp.88-92)、星の天 (pp.93-99)、夜半 (pp.100-114)、附録 高嶺の月 (昇曙夢著 pp.115-117)、海と人生 (昇曙夢著 pp.117-120)、濁浪 (素表著 pp.120-128)、颶風 (雨谷著 pp.129-143)、詩篇第百三 (pp.144-146) [序] から: 「編者、余に求むるに本書の序文を以てせられしも、新に稿を起す遑なかりしまゝ、曾て自然美に關して書きすてたるもの

どもかき輯めて茲に其責を塞」

[例言] から：「本書の原書は露國キエフ神科大學刊行雜誌

ВОСКРЕСНОЕ ЧТЕНИЯ より抜萃して一卷となせる КНИГА

ДЛЯ НАЗИДАТЕЛЬНОГО ЧТЕНИЯ（教訓集）にして、數年

前其全部を翻譯して正教會翻譯局より出版せられたり 本書は該譯

書中より本題に關係ある部分を抜萃し、更に之が文体を改めたるも

のなり。（中略）本書に就ては友人昇曙夢君の勞を煩はしたるもの頗  
る多し、記して以て原意を謝す。」

### 明治 37 (1904) 年

- \* 「イワン、ツルゲネーフ（雜録）」

新聲 11 編 2 号, 226-231 (1904.1.15)

- \* 「露國文豪ゴーゴリ（十一）（史傳）」

使命（使命社）56 号, 10-14 (1904.2.5)

内容：作家と批評家

- \* 「狂言脚本『検査官』に就て（殘續）」曙夢生

裏錦 136 号, 39-45 (1904.2.25)

- \* 「狂言脚本『検査官』に就て（承前）（殘續）」曙夢生

裏錦 137 号, 43-49 (1904.3.25)

- \* 「露國文豪ゴーゴリ（十二）（史傳）」

使命（使命社）57 号, 9-11 (1904. 4)

内容：創作難

- (訳) 「ポルタワの激戦（日曜附録）」プーシキン作

讀賣新聞（朝）9644 号, 5 (1904.4.17)

- (訳) 「ボロデイノの激戦（日曜附録）」レルモントフ作

讀賣新聞（朝）9665 号, 5 (1904.5.8)

- \* 『露國文豪ゴーゴリ』昇直隆著 東京 春陽堂 1904.6.18 6, 8, 206p

肖像 23cm

表紙の書名、著者表示：『ゴーゴリ』昇曙夢著

内容：自序 (pp.1-6)、目録 (pp.1-8)、一 緒論 (pp.1-8)、二 少

年時代のゴゴリ (pp.9-16)、三 ペテルブルグに於けるゴゴリ (pp.17-25)、四 ゴゴリの創作 (其一) (pp.26-47)、五 ゴゴリの創作 (其二) (pp.48-56)、六 ゴゴリの創作 (其三) (pp.57-76)、七 ゴゴリと其社會 (pp.77-84)、八 漂零の愁客 (其一) (pp.85-95)、九 漂零の愁客 (其二) (pp.96-105)、十 心的煩悶の前兆 (pp.106-114)、十一 最後の傑作『死靈魂』 (pp.115-131)、十二 ゴゴリの戀 (pp.132-139)、十三 ゴゴリの生活と病的傾向 (pp.140-148)、十四 ゴゴリと批評家 (pp.149-168)、十五 ゼルザレム旅行 (pp.169-174)、十六 晩年のゴゴリ (pp.175-185)、十七 悲哀の最後 (pp.186-194)、結論 十八 文學者としてのゴゴリ (pp.195-206)

\* 「露西亞劇壇の明星 オストロヴスキー論 (一～二) (雜纂)」

時代思潮 6号, 47-51 (1904.7.5)

\* 「トルストイ伯の反動的的精神 (日曜附録)」曙夢生

讀賣新聞 (朝) 9749号, 4 (1904.7.31)

\* 「トルストイ伯の反動的的精神 (承前) (日曜附録)」曙夢生

讀賣新聞 (朝) 9756号, 4 (1904.8.7)

\* 「露國民謡の特質 (夏期附録)」曙夢生

裏錦 142号, 33-38 (1904.8.25)

\* 「オストロヴスキー論 (三～四) (雜纂)」

時代思潮 8号, 47-53 (1904.9.5)

(訳) 「くさ場 (小説)」ツルゲ子フ作

新小説 9年10巻, 59-94 (1904.10.1)

のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録

\* 「オストロヴスキー論 (五～六) (雜纂)」

時代思潮 9号, 54-62 (1904.10.5)

(注) 実際のタイトルは「オスツロヴスキー論」

\* 「オストロヴスキー論 (七～九) (雜纂)」

時代思潮 10号, 48-55 (1904.11.5)

(注) 実際のタイトルは「オトトロウスキー論」

- \* 「オストロヴスキー論（十～十一・完）（雜纂）」

時代思潮 11号, 56-61 (1904.12.5)

（注）実際のタイトルは「オスツロヴスキー論」

## 明治 38 (1905) 年

- \* 「春紅葉（殘繡）」曙夢生

裏錦 148号, 52-55 (1905.2.25)

- \* 「琉球の短歌」 こゝろ乃花 9巻4号, 39-42 (1905.4.1)

- \* 「雪のあけぼの（我が過去記の一節）（雜録）」

新小説 10年4巻, 192-195 (1905.4.1)

（訳）「吹雪（想苑）」プシキン作

時代思潮 2巻通号15号, 46-52 (1905.4.5)

のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録

- \* 「琉球の短歌（前號の續き）」

こゝろ乃花 9巻5号, 45-48 (1905.5.1)

（訳）「吹雪（接前）（想苑）」プシキン作

時代思潮 2巻通号16号, 48-53 (1905.5.5)

のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録

- \* 「露國の國民詩人」 こゝろ乃花 9巻8号, 23-26 (1905.8.1)

- \* 「露文學の過去（文藝）」

太陽 11巻11号, 115-126 (1905.8.1)

- \* 「有聲無聲（雜録）」新小説 10年9巻, 36-43 (1905.9.1)

内容：（一）月の富士山（pp.36-37）（二）月の由井ヶ濱（pp.37-38）

（三）木曾路の暮（pp.38-39）（四）山里の夢（pp.39-40）（五）海

峽の夕（p.40）（六）月の明石潟（pp.40-41）（七）島のあけぼの

（pp.41-42）（八）和歌浦の夕潮（p.42）（九）東海の小波（pp.42-43）

- \* 「文學者ゴリキイ（雜纂）」

時代思潮 2巻通号21号, 49-55 (1905.10.5)

- \* 「ドストエーヴスキイの人生觀（雜録）」

教育界 5巻1号, 92-100 (1905.11.3)

内容：一、總説 二、ドストエヴスキ氏の敘述 三、ドストエヴスキイ文學の主題 四、人類更新の事業に要する資質

\* 「詩人ジュコーヴスキイ（文繡）」

裏錦 157号, 29-33 (1905.11.25)

\* 「ドストエーヴスキイの人生觀（續）（雜録）」

教育界 5卷2号, 78-82 (1905.12.3)

内容：五、倫理的更新と愛の宣傳者

\* 「露國の新紀元（「ノーヴオエヴレーミヤ」紙上、ロザノフ氏の所論を讀みて）」 讀賣新聞（朝）10250号, 5 (1905.12.27)

のち、正教新報 603号 (1906.1.15) に再録

\* 「露國の新紀元（承前）（「ノーヴオエヴレーミヤ」紙上、ロザノフ氏の所論を讀みて）」 讀賣新聞（朝）10251号, 5 (1905.12.28)

のち、正教新報 603号 (1906.1.15) に再録

## 明治 39 (1906) 年

(抄訳) 「露語發達史〔總論〕（一）（文藝史傳）」ニコライ・グレチ著

教育時論 746号, 42-44 (1906.1.5)

内容：一、言語の價值 二、言語の起源 三、言語の構成

(抄訳) 「露語發達史總論（二）（文藝史傳）」[ニコライ・グレチ著]

教育時論 747号, 14-17 (1906.1.15)

内容：四、言語の發達 五、言語の變遷 六、言語と詩歌

\* 「露國の新紀元（雜録）」

正教新報 603号, 19-22 (1906.1.15)

(注)（「ノーヴオエヴレーミヤ」紙上、ロザノフ氏の所論を讀みて）

と冒頭にあり。また、「以上は舊臘讀賣新聞に掲げられたるもの、筆者の承諾を以て茲に轉載することゝなしたり 記者」と卷末にあり。

(訳) 「死に對して」 裏錦 159号, 卷頭 (1906.1.25)

(訳) 「奇火（文繡）」コロレンコ [作]

裏錦 159号, 39-40 (1906.1.25)

のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録

(抄訳)「露語發達史總論 (三) (文藝史傳)」[ニコライ・グレチ著]

教育時論 748 号, 7-8 (1906.1.25)

内容：七、文字の起源

(抄訳)「露語發達史總論 (四) (文藝史傳)」[ニコライ・グレチ著]

教育時論 750 号, 17-18 (1906.2.15)

内容：八、言語と文學

(抄訳)「露語發達史總論 (五) (文藝史傳)」[ニコライ・グレチ著]

教育時論 751 号, 17-19 (1906.2.25)

内容：九、歐亞古語系統 十、國語と國民性

(抄訳)「露語發達史總論 (六・終了) (文藝史傳)」[ニコライ・グレチ著]

教育時論 753 号, 19-21 (1906.3.15)

内容：十一、露語の特質 十二、露國と露國史

(想訳)「悲劇海少女」[プーシキン原作] [(注) 昇曙夢作とあり]

新小説 11 年 4 卷, 91-106 (1906.4.1)

のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録

(訳) 「ハムレット及びドン・キホーテ (文藝)」ツルゲネフ [講演]

太陽 12 卷 5 号, 139-147 (1906.4.1)

(訳) 「ハムレット及びドン・キホーテ (承前) (文藝)」ツルゲネフ [講演]

太陽 12 卷 7 号, 129-134 (1906.5.1)

\* 「ドストエーヴスキイの人生觀 (續) (雜録)」

教育界 5 卷 8 号, 83-89 (1906.6.3)

内容：六、意志と意志、愛と謙遜

\* 「漲水物語 (宮古島傳説)」

心乃花 10 卷 8 号, 52-53 (1906.7.1)

\* 「ドストエーヴスキイの人生觀 (續・完結) (雜録)」

教育界 5 卷 9 号, 85-89 (1906.7.3)

内容：七、同情と誠實

\* 「百合」 藝苑 (第二次) 1 年 8 号, 17-23 (1906.8.1)

(訳) 「レルモントフの遺墨 (文藝)」

太陽 12 卷 12 号, 135-142 (1906.9.1)

- \* 「秋（文繡）」 裏錦 168号, 54-56 (1906.10.1)
- (訳) 「小説 凄艶」 ツルゲー子フ作 (春汀畫)
- 文藝俱樂部 12巻13号, 68-101 (1906.10.1)
- のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録
- \* 「ゴーリキイの傑作と其の世界觀」
- 早稻田文學 (第二次) 10号, 56-76 (1906.10.1)

## 明治 40 (1907) 年

- (訳) 「心づくし (原名「彼得大帝の黒人」) (本欄)」 プーシキン作
- 新小説 12年2巻, 1-49 (1907.2.1)
- のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録
- \* 「トルストイ翁の金言 (文藝)」
- 太陽 13巻2号, 149-152 (1907.2.1)
- (訳) 「ゴーリキイの人生觀眞髓 (雜録)」
- 新小説 12年3巻, 45-50 (1907.3.1)
- \* 「スラヴ評論」 使命 1巻1号 (59号), 4-6 (1907.3.20)
- 内容：一、矛盾の民 二、二大思潮 三、暗示的理想
- \* 「詩人プーシキン」 日本及日本人 462号, 61-63 (1907.7.1)
- \* 「露文學と國民性 (一)」
- 日本 (日本新聞社) 6467号, 1 (1907.7.15)
- \* 「露文學と國民性 (二)」
- 日本 (日本新聞社) 6468号, 1 (1907.7.16)
- \* 「露文學と國民性 (三・完)」
- 日本 (日本新聞社) 6469号, 1 (1907.7.17)
- \* 「露國文學の一要素」 日本 (日本新聞社) 6535号, 1 (1907.9.21)
- (注) 末尾に「故に吾人は以後追次にクルイロフの譬喩譚中秀逸の聞えあるもの數篇を譯載して、その一斑を伺はんと欲す。」とあり次の連載の前文に当たる。
- (訳) 「クルキロフ譬喩譚 [一]」
- 日本 (日本新聞社) 6536号, 1 (1907.9.22)

内容：蛙と牛

(訳) 「クルキロフ譬喩譚 [二]」

日本（日本新聞社）6537号, 1（1907.9.23）

内容：蠅と蜂

(訳) 「クルキロフ譬喩譚 [三]」

日本（日本新聞社）6538号, 1（1907.9.24）

内容：四人合奏

(訳) 「クルキロフ譬喩譚 [四]」

日本（日本新聞社）6539号, 1（1907.9.25）

内容：狼と猫

(訳) 「クルキロフ譬喩譚 [五]」

日本（日本新聞社）6540号, 1（1907.9.26）

内容：狐

\* 「秋の自然（文藝）」 女鑑 17年10号, 85-87（1907.10.1）

\* 「現代露西亞文學（海外近代文學研究）」

新聲 17編4号, 346-348（1907.10.1）

(訳) 「窒扶斯」チェホフ作

新小説 12年11巻, 1-11（1907.11.1）

のち、『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 に収録

\* 「トルストイの日常生活」

早稻田文學（第二次）24号, 98-102（1907.11.1）

（注）末尾に「露國の雑誌や新聞などとりどりに参考して、此處迄書いて來た時、圖らずも杜翁危篤（？）の報に接して、再び筆を續くるの勇氣が出でず、不取敢茲に擱筆することゝした」とあり。

\* 『露西亞文學研究』東京 隆文館 1907.12.25 6, 8, 312p 23cm

内容：序文（pp.1-6）、目次（pp.1-8）、**露文學の過去**（pp.1-24）、一 スラヴ人文の曙光、二 國民詩人、三 露西亞文化の要素、四 國民文學の性質、五 基督教の影響、六 國民的大詩篇、七 自由思想の勃興、八 翻譯文學の傳播、九 露文學の新機運、十 改革以後の露文學、**露文學と國民性**（pp.25-31）、一 露文學の特



徴、二 國民性の代表者、三 不思議なる矛盾性、**露人の悲劇的性格** (pp.32-36)、内部的悲劇—ゴンチャロフの主人公—チエーホフの主人公、**露國々民文學の一要素** (pp.37-45)、一 國語と國民性の譬喩譚、二 クルイロフの譬喩譚 (一) 蛙と牛 (二) 蠅と蜂 (三) 狼と猫 (四) 狐 (五) 四人合奏 (六) 好事者、**露國民謠論** (pp.46-62)、一 民謠の價值、二 露國民謠の特質、三 小露西亞民謠、四 民謠の形式、**露國々民劇沿革** (pp.63-74)、彼得時代の演劇=劇作家スマローコフ=ヤロスラーヴリ一座の歴史=十九世紀前半期の劇壇=オストローフスキイの功業=國民劇の完成、**露西亞戲曲一斑** (pp.75-81)、オストローフスキイ以後の劇作、**露國詩人と其詩** (pp.82-114)、一 露國詩歌の特質、二 デルヂャーウ井ン、三 國民詩人、四 ジュコーフスキイ、五 プーシキン、六 レルモントフ、**レルモントフの遺墨** (詩人半生の面影) (pp.115-127)、一 幽趣微韻、二 暗影素香、**ツルゲーネフの面影** (pp.128-141)、傳記=著作=逸話、**ツルゲーネフの名著** (pp.142-170)、一 ドン・キホーテとハムレット、二 ドン・キホーテの性格、三 ハムレットの性格、四 兩者の倫理的關係、五 兩者と社會、六 兩者の婦人に對する關係、七 人生の二大原則、八 セクスピアとセルワンテス、九 性格上の長短、十 結論、**ドストエフスキイ論** (pp.171-209)、一 總說、二 叙述の形式、三 文學の主題、四 更新の福音、五 更新者の摸型、六 人心の感化的要素、七 同化の甦生的作用、**オストローフスキイ論** (pp.210-237)、一 緒論、二 劇作上の特質、三 氏の人生觀、四 時代精神と民主的理想、五 戲曲の人物と題材、**トルストイ論** (pp.238-242)、伯の根本傾向=伯の作物一斑=伯の藝術觀=文學上の特質、**ゴーリキイ論** (pp.243-257)、一 露文學と貴族的要素、二 浮浪詩人、三 ゴーリキイの文學的位地、四 作中の主人公、五 超人主義の影響、六 文學と人生、**ゴーリキイの傑作『奈落の底』** (pp.258-278)、一 『奈落の底』梗概、二 近代劇と『奈落の底』、三 世界觀の變遷、四 ゴーリキイ文學の格調、五 露西亞的模型、六 『奈落の底』の厭世

的要素、現代二文豪の人生訓（pp.279-296）、一 トルストイの人生訓、二 ゴーリキイの人生訓、現代露文學の特徴（pp.297-300）、前代文學と現代文學＝コロレンコの傑作＝アンドレーエフの文学、附録 露國文學者年表（イロハ引）（pp.301-312）

（注）序文の末尾に「終りに臨み、此の書を刊行するに當り、雑誌『太陽』、『新小説』、『早稻田文學』、『教育界』が特に轉載の儀を快諾せられたる厚意に對して茲に深く感謝の意を表わすと云爾」とあり。

## 明治 41（1908）年

\* 「愛讀書」〔アンケート〕

趣味 3 卷 1 号, 6-8 (1908.1.1)

（訳）「降誕（附録）」ゴゴリ〔作〕

新聲 18 編 1 号, 114-116 (1908.1.1)

（未見）「ゴリキイ論」九州文學

（注）早稻田文學（第二次）28 号の「新聞雑誌文學一覧（自一月廿一日至二月廿一日）」に記載されているが所蔵館不明のため未見。

\* 「アンドレーエフの傑作と其人生觀」

早稻田文學（第二次）27 号, 75-85 (1908.2.1)

\* 「最近露文學管見（文藝）」

太陽 14 卷 4 号, 90-94 (1908.3.1)

\* 「露國文學と本邦現代文學との交渉（一）」馬場孤蝶、昇曙夢著

趣味 3 卷 4 号, 63-72 (1908.4.1)

（注）昇曙夢の部分は pp.70-72、なお本文（70 頁）には無いが 71 頁の柱には「露國文學と本邦現代文學との交渉（二）」とある。

\* 「露國の自然主義」早稻田文學（第二次）29 号, 56-63 (1908.4.1)

\* 「露西亞婦人氣質（世界の婦人）」

愛國婦人 150 号, 4 (1908.4.5)

\* 「露文學の倫理的要素（上）（時代文藝）」

東京二六新聞 1448 号, (1908.5.3)

\* 「露文學の倫理的要素（中）（時代文藝）」

- 東京二六新聞 1449 号, (1908.5.4)
- \* 「露文學の倫理的要素（下）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1450 号, (1908.5.5)
- \* 「ダンチェンコ翁訪問記（文藝）」  
太陽 14 卷 8 号, 136-140 (1908.6.1)
- \* 「北歐文星二三（上）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1506 号, (1908.6.30)
- \* 「來朝せる露國名優フイグネル氏と語る」  
趣味 3 卷 7 号, 37-42 (1908.7.1)
- \* 「露國に赴かれたる長谷川二葉亭氏」[アンケートか?]  
趣味 3 卷 7 号, 52-53 (1908.7.1)
- \* 「近世露國文學（一）」  
文藝週報（時事新報附録）112 号, 1 (1908.7.1)
- \* 「北歐文星二三（下）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1509 号, (1908.7.3)
- \* 「近世露國文學（二）」  
文藝週報（時事新報附録）113 号, 2 (1908.7.8)
- \* 「近世露國文學（三）」  
文藝週報（時事新報附録）115 号, 1 (1908.7.22)
- \* 「近世露國文學（四・完）」  
文藝週報（時事新報附録）116 号, 1 (1908.7.29)
- \* 「ヤスナヤ・ポリャナの星影」  
早稻田文學（第二次）33 号, 61-65 (1908.8.1)
- \* 「露國文壇の新傾向」文章世界 3 卷 11 号, 12-17 (1908.8.15)
- \* 「一顆涼」[アンケート]  
新小説 13 年 9 卷, 52-53 (1908.9.1)
- \* 「プーシキンの最期（一）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1569 号, (1908.9.1)
- \* 「プーシキンの最期（二）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1570 号, (1908.9.2)

- \* 「プーシキンの最期（三）（時代文藝）」

東京二六新聞 1572 号, (1908.9.4)

- \* 「プーシキンの最期（四）（時代文藝）」

東京二六新聞 1573 号, (1908.9.5)

- \* 「露西亞文學に學ぶべき點」

新潮 9 卷 4 号, 17-20 (1908.10.1)

(訳) 『白夜集 露國名著』東京 章光閣 1908.11.17 [1], [1], 278p 図版  
23cm

内容：はしがき ([p.1])、目次 ([p.1])、草場（ツルゲーネフ pp.1-49）、凄艶（ツルゲーネフ pp.51-94）、吹雪（プーシキン pp.95-119）、黒人（プーシキン pp.121-190）、海少女（プーシキン pp.191-214）、奇火（コロレンコ pp.215-216）、壺扶斯（チェーホフ pp.217-231）、拳銃（チェーホフ pp.233-260）、惡魔（ゴーリキイ pp.261-277）

（注）95 頁の題名は「吹雪」ではなく「雪吹」となっている。191 頁「海少女」の題名の次に、（翻譯でもなければ翻譯案でもない、と言って創作と言ふ譯では無論ない。斯んなあやふやなものにプーシキンの名を犯しては故詩人に對して氣の毒だけれど仕方がない。想を取って邦文に移したのだから假に想譯として置く……………）とある。

- \* 「暗黒時代と光明時代（露文學に於ける）（一）（時代文藝）」

東京二六新聞 1655 号, (1908.11.26)

- \* 「暗黒時代と光明時代（露文學に於ける）（二）（時代文藝）」

東京二六新聞 1657 号, (1908.11.28)

- \* 「暗黒時代と光明時代（露文學に於ける）（三）（時代文藝）」

東京二六新聞 1658 号, (1908.11.29)

- \* 「暗黒時代と光明時代（露文學に於ける）（四・完）（時代文藝）」

東京二六新聞 1659 号, (1908.11.30)

- \* 「トルストイ論（伯の八十回の誕辰を記憶して）」

早稲田文學（第二次）37 号, 48-53 (1908.12.1)

- \* 「馬場君に答ふ（時代文藝）」

東京二六新聞 1672 号, (1908.12.13)

(注) 馬場狐蝶著「『白夜集』を讀みて (一)～(九) (時代文藝)」  
東京二六新聞 (1908.12.1、12.3～10) に対する弁論。これに対し、  
馬場狐蝶著「昇君に (上)・(中)・(下) (時代文藝)」東京二六新聞  
(1908.12.21、12.22、12.24) がある。また、昇曙夢「『白夜集』の辨  
(上)・(中)・(下) (時代文藝)」東京二六新聞 (1909.2.26、2.27、3.2)  
もある。

## 明治 42 (1909) 年

\* 「露國國民文學の基礎 (プーシキンとゴーゴリ) (文藝史傳)」

教育時論 854 号, 37-39 (1909.1.5)

(談) 「露西亞文學の大勢 (上) (國民文學欄)」

國民新聞 6044 号, (1909.1.6)

(談) 「露西亞文學の大勢 (中) (國民文學欄)」

國民新聞 6045 号, (1909.1.7)

(談) 「露西亞文學の大勢 (下) (國民文學欄)」

國民新聞 6046 号, (1909.1.8)

\* 「八十歳を迎へたるトルストイ伯 (内外諸文豪の杜翁觀)」

學鐙 13 年 1 号, 15-19 (1909.1.18)

\* 「琉球文學に就て (上) (文學百方面)」

讀賣新聞 (朝) 11369 号, 5 (1909.1.20)

\* 「琉球文學に就て (中) (文學百方面)」

讀賣新聞 (朝) 11370 号, 5 (1909.1.21)

\* 「琉球文學に就て (下) (文學百方面)」

讀賣新聞 (朝) 11371 号, 5 (1909.1.22)

\* 「露國の新作家 (上) (毎日文壇)」

東京毎日新聞 12089 号, 1 (1909.1.30)

\* 「露國の新作家 (中) (毎日文壇)」

東京毎日新聞 12090 号, 1 (1909.1.31)

\* 「露國の新作家 (下) (毎日文壇)」

- 東京毎日新聞 12091号, 1 (1909.2.1)
- \* 「最近の露西亞文壇」學鐙 13年2号, 14-16 (1909.2.18)
- \* 「文士と鮎汁粉(國民文學欄)」[アンケート]  
國民新聞 6092号, (1909.2.25)
- \* 「『白夜集』の辨(上)(時代文藝)」  
東京二六新聞 1747号, (1909.2.26)  
(注) 馬場狐蝶が誤訳との指摘に対する反論
- \* 「『白夜集』の辨(中)(時代文藝)」  
東京二六新聞 1748号, (1909.2.27)
- \* 「『白夜集』の辨(下)(時代文藝)」  
東京二六新聞 1749号, (1909.2.28)
- (訳) 「靜かな曙」ボリス・ザイチエフ作  
趣味 4巻3号, 1-15 (1909.3.1)  
のち、『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20  
に収録
- (談) 「ロシア文學の象徵派及び劇壇の近況」  
新潮 10巻3号, 25-29 (1909.3.1)
- \* 「トルストイ伯に就て(時代文藝)」  
東京二六新聞 1781号, (1909.4.1)
- (談) 「露國の嚴齋週間(毎日文壇)」  
東京毎日新聞 12158号, 1 (1909.4.9)
- \* 「近代露文學の曉星(一)(ゴーゴリ誕生百年紀に際して)(毎日文壇)」  
東京毎日新聞 12163号, 1 (1909.4.14)
- \* 「腦力經濟、時間經濟(歩くときのさまざま)」[アンケート]  
文章世界 4巻5号, 108-110 (1909.4.15)
- \* 「近代露文學の曉星(二)(ゴーゴリ誕生百年紀に際して)(毎日文壇)」  
東京毎日新聞 12167号, 1 (1909.4.18)
- \* 「煩悶の人ゴーゴリ(近代露文學の特徴)(日曜附録)」  
讀賣新聞(朝) 11457号, 6 (1909.4.18)
- \* 「近代露文學の曉星(三)(ゴーゴリ誕生百年紀に際して)(毎日文壇)」

- 東京毎日新聞 12168号, 1 (1909.4.19)
- \* 「近代露文學の曉星 (四) (ゴゴリ誕生百年紀に際して) (毎日文壇)」  
東京毎日新聞 12170号, 1 (1909.4.21)
- \* 「近代露文學の曉星 (五) (ゴゴリ誕生百年紀に際して) (毎日文壇)」  
東京毎日新聞 12171号, 1 (1909.4.22)
- \* 「近代露文學の曉星 (六・完) (ゴゴリ誕生百年紀に際して) (毎日文壇)」  
東京毎日新聞 12173号, 1 (1909.4.24)
- \* 「自由結婚の可否 (8)」[アンケート]  
家庭雑誌 6巻2号, 19 (1909.5.1)
- \* 「露國寫實主義の創始者 (ゴゴリの誕辰百回紀に際して) (文藝)」  
太陽 15巻6号, 124-129 (1909.5.1)
- \* 「杜翁のゴゴリ論 (上) (海外新音)」  
東京二六新聞 1813号, (1909.5.3)  
(注) 著者表示はないが、「早稻田文學 (第二次) 43号 (1909.6.1)」の「新聞雑誌文學一覽」に (曙夢) と表示があるので採録する。
- \* 「杜翁のゴゴリ論 (下) (海外新音)」  
東京二六新聞 1818号, (1909.5.8)  
(注) 著者表示はないが、「早稻田文學 (第二次) 43号 (1909.6.1)」の「新聞雑誌文學一覽」に (曙夢) と表示があるので採録する。
- \* 「現代露文學の特徴 (上) (時代文藝)」  
東京二六新聞 1839号, (1909.5.29)
- \* 「現代露文學の特徴 (下) (時代文藝)」  
東京二六新聞 1841号, (1909.5.31)
- (未見) 「尊敬すべき婦人」[アンケート]  
家庭雑誌 6巻3号, 20-22 (1909.6.1)  
(注) 復刻版 (東京 不二出版 1983) に6巻3, 4号の本文なし。
- (談) 「露國新進作家に通じたる新傾向」  
新潮 10巻6号, 35-38 (1909.6.1)
- \* 「都會詩人バリモント」  
早稻田文學 (第二次) 43号, 1-23 (1909.6.1)

- \* 『日本百科大辞典 第貳巻』東京 三省堂書店 1400p 1909.6.27  
27cm  
執筆項目：オストロフスキー（p.72）、オブローモフ（p.119）、カラムジン（p.1069）、ガルシン（p.1096）
- (訳) 「閑人」クープリン作  
趣味 4巻7号, 1-21 (1909.7.1)  
のち、『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20  
に収録
- \* 「招涼珠」[アンケート]  
新小説 14年8巻, 31-32 (1909.8.1)
- \* 「謎の人二葉亭」(坪内逍遙、内田魯庵編『二葉亭四迷』東京 易風社  
1909.8.1 所収 pp. 下ノ 19- 下ノ 27)
- \* 「露國新進作家自叙傳」  
早稻田文學（第二次）45号, 1-16 (1909.8.1)  
内容：一、レオニード・アンドレーエフ 二、アルツイバーセフ・ミハイル 三、アンドルーソン・レオニード 四、バリモント・コンスタンチン 五、ブロック・アレクサンドル 六、ゴルデツキイ・セルゲイ 七、ゴードイン・ヤコフ 八、イズマイロフ・アレクサンドル 九、カーメンスキイ・アナトリイ 十、ラザレーフスキイ・ボリス 十一、ムイゼリ・キクトル 十二、ロスラーウレフ・アレクサンドル 十三、フエードル・ソログーブ 十四、チェンゾル・デイミトリイ 十五、チュルコフ・ゲオルギイ  
(注) 早稻田文學（第二次）47号, 41-42 (1909.10.1)「安成貞雄君に（印象録）」では冒頭に「拙譯「露國新進作家自叙傳」に就て」とある。
- \* 「露國文學に於ける狂的分子（上）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1907号, 4 (1909.8.5)
- \* 「露國文學に於ける狂的分子（中）（時代文藝）」  
東京二六新聞 1908号, 4 (1909.8.6)
- \* 「露國文學に於ける狂的分子（下）」



- 東京二六新聞 1909 号, 4 (1909.8.7)
- \* 「文士と八月 (國民文學欄)」[アンケート]  
國民新聞 6258 号, (1909.8.11)
- \* 「露國文壇消息」 東京二六新聞 1914 号, 4 (1909.8.12)
- \* 「露國文壇消息」 學鐙 13 年 8 号, 9-12 (1909.8.18)
- (談) 「最近露西亞文學談－アンドレーエフが名を成したる所以其他一二の  
新作家に就て」 新小説 14 年 9 卷, 221-226 (1909.9.1)
- (談) 「ボリス・ザイチェフ」  
新潮 11 卷 3 号, 64-69 (1909.9.1)
- \* 「執筆 (國民文學欄)」[アンケート]  
國民新聞 6283 号, (1909.9.5)
- \* 「内外百書選定 (九)」[アンケート] 昇直隆  
文藝週報 (時事新報附録) 175 号, 1 (1909.9.15)
- \* 「チエーホフ論」 無名通信 12 号, 110-114 (1909.10.1)
- (訳) 「深淵」 アンドレーエフ作  
新小説 14 年 10 卷, 11-32 (1909.10.1)
- (注) 發賣禁止処分を受ける。  
のち、齋藤未鳴編『明治文藝側面鈔 第一輯』(横浜 樹海社  
1916.1.30) などに収録。
- \* 「安成貞雄君に (印象録)」  
早稻田文學 (第二次) 47 号, 41-42 (1909.10.1)
- \* 「補助智識の必要 (予が翻譯の態度)」  
文章世界 4 卷 13 号, 23-28 (1909.10.15)
- \* 「露國詩界の近況 (上) (二六文壇)」  
東京二六新聞 1999 号, 4 (1909.11.5)
- \* 「露國詩界の近況 (下) (二六文壇)」  
東京二六新聞 2000 号, 4 (1909.11.6)
- \* 「文藝家と晚餐 (六十四) (二六文壇)」[アンケート]  
東京二六新聞 2022 号, 4 (1909.11.28)
- \* 『文藝百科全書』早稻田文学社編 東京 隆文館 1909.12.10 1 冊

図版 26cm

執筆項目(確認できたもののみ):

ロシア文學(第壹部 文藝概論、文學 pp.607-638)、プーシキン『エウゲーニイ・オネーギン(一八二五-三二年)』(第參部 解題 pp.132-133)、ゴーゴリ『死せる人々(一八四二年)』(第參部 解題 pp.134-135)、ゴンチャールフ『オブローモフ(一八五九年)』(第參部 解題 pp.141-143)

### 明治 43 (1910) 年

- \* 「柴二=曙夢(文藝家相互評)」

趣味 5 卷 1 号, 50-53 (1910.1.1)

(注) 草野柴二「昇曙夢君」(pp.50-51) 昇曙夢「草野柴二君」(pp.52-53)

- \* 「現代の露西亞文學(附録・講話)」

新聲 21 卷 1 号, 246-251 (1910.1.1)

- \* 「露西亞八面觀」 正教新報 698 号, 18-20 (1910.1.1)

- \* 「チェーホフに就て(國民文學欄)」

國民新聞 6426 号, (1910.1.30)

(訳) 「夜の叫び」バリモント作

趣味 5 卷 2 号, 1-18 (1910.2.1)

のち、『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20  
に収録

- \* 「昨年の露國文壇(上)(文藝)」

時事新報 9470 号, 7 (1910.2.5)

- \* 「昨年の露國文壇(中)(文藝)」

時事新報 9471 号, 12 (1910.2.6)

- \* 「昨年の露國文壇(下)(文藝)」

時事新報 9472 号, 6 (1910.2.7)

- \* 「クープリンの傑作「ヤーマ」」

文章世界 5 卷 3 号, 74-81 (1910.2.15)

(訳) 「妻 (創作)」 アルツイバーセフ作

早稲田文学 (第二次) 52 号, 1-41 (1910.3.1)

のち、『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20  
に収録

(談) 「クープリンの「決闘」」 新潮 12 卷 3 号, 72-75 (1910.3.1)

\* 『日本百科大辞典 第参卷』東京 三省堂書店 1910.3.24 1436p  
27cm

執筆項目：グリゴロヴィチ (p.631)、グリボイエドフ (pp.640-641)、  
クルイロフ (pp.648-649)、ゲルチェン (pp.1256-1257)、ゴーゴリ  
(pp.1402-1403)、ゴーリキー (p.1411)

(訳) 「霧 (附録)」 アンドレーエフ作

趣味 5 卷 4 号, 1-63 (1910.4.1)

のち、『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20  
に収録

\* 「露國新舊兩都のチエホフ祭」乃慕留生

趣味 5 卷 4 号, 72-73 (1910.4.1)

\* 「露國文壇近状 (一) (文藝)」

時事新報 9537 号, 7 (1910.4.13)

\* 「露國文壇近状 (二) (文藝)」

時事新報 9538 号, 7 (1910.4.14)

\* 「露國文壇近状 (三) (文藝)」

時事新報 9539 号, 7 (1910.4.15)

\* 「露國文壇近状 (四) (文藝)」

時事新報 9540 号, 7 (1910.4.16)

(未見) (訳) 「かくれんぼ」 ソログーヴ作

新文藝 4 号, (1910.5)

のち、『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20  
に収録

(注) 「新文藝 4 号」の所蔵館不明のため未見。

\* 「現代露西亞文學大觀 (一～二) (日曜附録)」

大阪朝日新聞 10118 号, 1 (1910.5.1)

- \* 「アルツイバーセフの近作梗概（雑纂）」

太陽 16 卷 6 号, 205-211 (1910.5.1)

- \* 「現代露西亞文學大觀（三）（日曜附録）」

大阪朝日新聞 10125 号, 2 (1910.5.8)

- \* 「現代露西亞文學大觀（四～五）（日曜附録）」

大阪朝日新聞 10132 号, 2 (1910.5.15)

(訳) 『露西亞現代代表的作家 六人集』東京 易風社 1910.5.20 14, 4, [1],  
338p 19cm

標題紙のタイトル：『六人集』

表紙、背文字のタイトル：『露西亞現代代表的作家 六人集』

内容：序文（エス・エリセーエフ著 pp.1-14）、自序（pp.1-4）、目次（p.[1]）、夜の叫（バリモント pp.1-33）、静かな曙（ザイツェフ pp.35-64）、閑人（クープリン pp.65-105）、かくれんぼ（ソログーヴ pp.107-142）、妻（アルツイバーセフ pp.143-207）、霧（アンドレーエフ pp.209-338）

（注）自序の末尾に「最後に辭はつて置きたいのは、篇中所々に伏字を入れた點である。是れは發行書肆の相談に據つたので、原作者と讀者とに對しては誠に濟まない譯だが、今のやうに其筋の檢閲が苛酷では止むを得ないことだと思ふ」とある。また、各収録作品の始まりには頁付の無い頁があり、作品名・著者名・肖像などの頁、その裏は各著者の紹介の頁となっている。

- \* 「現代露西亞文學大觀（六）（日曜附録）」

大阪朝日新聞 10139 号, 2 (1910.5.22)

- \* 「現代露西亞文學大觀（七～八・完）（日曜附録）」

大阪朝日新聞 10146 号, 1 (1910.5.29)

- \* 「死と惡と惡魔の讚美者（露國デカダンの代表者ソログーヴを論ず）」

世界文藝 2 号, 1-16 (1910.6.)

- \* 「萬人の心を世界（當代四十名士回答 宗教信仰後の人生觀）」[アンケート]  
成功 18 卷 5 号, 15 (1910.6.1)

- \* 「メレヂュコーフスキイ論（論説）」  
早稻田文學（第二次）55号, 1-20（1910.6.1）
- \* 「露國現代の代表作家（上）（文藝）」  
時事新報 9590号, 12（1910.6.5）
- \* 「露國現代の代表作家（中）（文藝）」  
時事新報 9591号, 7（1910.6.6）
- \* 「露國現代の代表作家（下）（文藝）」  
時事新報 9592号, 1（1910.6.7）
- \* 「露國文壇消息」 二六新報 4188号, 4（1910.6.11）
- \* 「トルストイ（日曜文藝）」  
二六新報 4189号, 4（1910.6.12）
- \* 「クープリンの片影（上）（ヤーマの後篇に就て）（文藝百方面）」  
讀賣新聞（朝）11891号, 5（1910.6.26）
- \* 「クープリンの片影（下）（ヤーマの後篇に就て）（文藝百方面）」  
讀賣新聞（朝）11893号, 5（1910.6.28）
- \* 「犬」 趣味 5巻7号, 11-14（1910.7.1）
- \* 「現代露西亞とアルツイバーセフ（傑作『サーニン』を讀みて）（雜録）」  
新小説 15年7巻, 89-97（1910.7.1）
- \* 「露國文壇の兩性問題（日曜附録）」  
讀賣新聞（朝）11898号, 6（1910.7.3）
- \* 「杜伯と其訪問者（上）（文藝）」  
時事新報 9630号, 7（1910.7.15）
- \* 「アンドレーエフの新曲『アナテマ』梗概 [解説]・第一幕」  
文章世界 5巻9号, 60-65（1910.7.15）
- \* 「杜伯と其訪問者（下）（文藝）」  
時事新報 9631号, 7（1910.7.16）
- \* 「露國文士生活（一）」  
毎日電報 2439号, 2（1910.7.27）  
内容：（一）クープリン（上）
- \* 「露國文士生活（二）」

毎日電報 2440 号, 2 (1910.7.28)

内容：(一) クープリン (下)

\* 「露國文士生活 (三)」

毎日電報 2441 号, 2 (1910.7.29)

内容：(二) アルツイバーセフ

\* 「露國文士生活 (四)」

毎日電報 2442 号, 2 (1910.7.30)

内容：(三) ゴーリキイ (上)

\* 「露國文士生活 (五)」

毎日電報 2443 号, 2 (1910.7.31)

内容：(三) ゴーリキイ (下)

\* 「現代露西亞とアルツイバーセフ (承前) (傑作『サーニン』を讀みて)  
(萬象)」

新小説 15 年 8 卷, 151-159 (1910.8.1)

(訳) 「姉」 ザイツェフ作 文章世界 5 卷 10 号, 231-239 (1910.8.1)

のち、『心の扉』東京 海外文藝社 1913.6.5 に収録

\* 「露國文士生活 (六)」

毎日電報 2445 号, 2 (1910.8.2)

内容：トルストイ伯 (上)

\* 「露國文士生活 (七)」

毎日電報 2446 号, 2 (1910.8.3)

内容：トルストイ伯 (下)

\* 「露國文士生活 (八)」

毎日電報 2447 号, 2 (1910.8.4)

内容：アンドレーエフ

\* 「露國文士生活 (九)」

毎日電報 2450 号, 1 (1910.8.7)

内容：デカダン派 (上)

\* 「露國文士生活 (十・完)」

毎日電報 2452 号, 1 (1910.8.9)

内容：デカダン派 (下)

- \* 「露國作家と婦人（上）（文藝）」  
時事新報 9661 号, 7 (1910.8.15)
- \* 「昇曙夢氏の書齋と家庭」  
文章世界 5 卷 11 号, 口絵写真 (1910.8.15)
- \* 「アンドレーエフの新曲『アナテマ』梗概 第二幕～第四幕（泰西文壇）」  
文章世界 5 卷 11 号, 103-107 (1910.8.15)
- \* 「露國作家と婦人（下）（文藝）」  
時事新報 9665 号, 8 (1910.8.19)
- \* 「ゴーリキイの復活（日曜附録）」  
讀賣新聞（朝） 11947 号, 7 (1910.8.21)
- \* 「アンドレーエフの新曲『アナテマ』梗概（承前・完）第五幕～第七幕（泰西文壇）」  
文章世界 5 卷 12 号, 95-99 (1910.9.15)
- \* 「露國作家近状（一）（文藝）」  
時事新報 9696 号, 7 (1910.9.19)
- \* 「露國作家近状（二）（文藝）」  
時事新報 9697 号, 7 (1910.9.20)
- \* 「露國作家近状（三）（文藝）」  
時事新報 9698 号, 7 (1910.9.21)
- \* 「暗い作家（記念附録）」  
讀賣新聞（朝） 11987 号, 5 (1910.9.30)
- \* 「露國文豪分布圖（雜録）」  
學生文藝 1 卷 2 号, 95-99 (1910.10.1)
- (談) 「近代文學の特長に就いて（研究）」  
新潮 13 卷 4 号, 101-104 (1910.10.1)
- \* 「近代露文學の特質（露西亞文學の倫理的要素）（評論）」  
露西亞文學 壺号, 48-56 (1910.10.1)
- \* 「『カペルナウム』と『ウエーナ』（雜録）」  
露西亞文學 壺号, 77-83 (1910.10.1)
- (訳) 「客」ボリス・ザイツェフ作  
早稻田文學（第二次） 59 号, 154-166 (1910.10.1)

のち、『心の扉』東京 海外文藝社 1913.6.5 に収録

(訳) 『どん底 脚本』 マクシム・ゴーリキー作 東京 聚精堂 1910.10.18  
11, 345p 19cm

内容：序に代えて（昇曙夢著 pp.1-11）、第一幕（pp.1-109）、第二幕（pp.111-195）、第三幕（pp.197-285）、第四幕（pp.287-345）

（注）「此譯書をセルゲイ・エリセーエフ君に獻ず」と巻頭にあり。

\* 「神經燃燒の露國詩壇」

創作 1 卷 9 号, 12-15 (1910.11.1)

\* 「杜伯と現代文學」 露西亞文學 1 卷 2 号, 67-73 (1910.11.1)

(談) 「露西亞の小説に表はれたる日本人（日本民族の膨張）」

太陽 16 卷 15 号, 104-106 (1910.11.10)

(談) 「逝ける杜翁－昇曙夢氏曰く」

讀賣新聞（朝）12037 号, 3 (1910.11.19)

\* 「トルストイ伯の逸話（一）」

毎日電報 2557 号, 5 (1910.11.22)

\* 「トルストイ伯の逸話（二）」

毎日電報 2558 号, 11 (1910.11.23)

\* 「トルストイ伯の逸話（三）」

毎日電報 2559 号, 3 (1910.11.24)

\* 「トルストイ伯の逸話（四）」

毎日電報 2560 号, 5 (1910.11.25)

\* 「最近露國文學印象（上）（文藝）」

時事新報 9764 号, 1 (1910.11.26)

\* 「最近露國文學印象（下）（文藝）」

時事新報 9765 号, 2 (1910.11.27)

(談) 「近代の露國文藝」 毎日電報 2562 号, 5 (1910.11.27)

\* 「相貌、性行、逸話（日曜附録）」

讀賣新聞（朝）12045 号, 6 (1910.11.27)

（注）逝去したトルストイの相貌、性行、逸話

\* 「トルストイ觀（現代六名士のトルストイ觀）」〔アンケート〕



教文評論 1 卷 9 号, 12 (1910.11.28)

(注) 六名士とあるが「矢崎嵯峨の舎」ほか昇曙夢を含め七名である。昇曙夢の末尾に「失念のため返事相後れ失禮仕候何卒不惡御思召被下度候」とある為か。

\* 「トルストイ伯の逸話 (五)」

毎日電報 2563 号, 3 (1910.11.28)

\* 「トルストイ伯の逸話 (六)」

毎日電報 2564 号, 5 (1910.11.29)

\* 「トルストイ伯の逸話 (七・完)」

毎日電報 2565 号, 5 (1910.11.30)

\* 「近代文學に現れたる露國のインテルゲント (研究)」

新潮 13 卷 6 号, 102-105 (1910.12.1)

\* 「トルストイ伯を偲ぶ (説苑)」

中央公論 25 年 12 号, 80-85 (1910.12.1)

\* 「トルストイの著作に關する統計 (1908 年調) (附録)」

早稻田文學 (第二次) 61 号, (1910.12.1)

(注) 附録の巻頭にあるが頁付なし。

(訳) 「杜翁近什數篇 (附録)」

早稻田文學 (第二次) 61 号, 1-7 (1910.12.1)

内容：一、細い絲 二、一番美味しい梨 三、百姓と瓜 四、猿と豆 五、穀倉の鼠 六、兎と獵犬 七、財産の分配 八、二匹の馬 九、猿 十、狗と鶏と狐 十一、自慢の因果

(訳) 「杜翁書簡二則 (附録)」

早稻田文學 (第二次) 61 号, 8-10 (1910.12.1)

\* 『日本百科大辭典 第四卷』東京 三省堂書店 1910.12.6 1420p  
27cm

執筆項目：コリツォフ (pp.397-398)、コロレンコ (p.427)、ゴンチャロフ (p.473)、サルツイコフ (pp.954-955)

\* 「杜伯の生涯 (文藝史傳)」

教育學術界 22 卷 3 号, 59-62 (1910.12.10)

（注）末尾に「(齋藤生記)」とある。

## 明治 44 (1911) 年

- \* 『偉人トルストイ伯』 東京 春陽堂 1911.1.1 [2], 2, 242p 肖像 図版  
19cm

奥付の著者表示：昇直隆

内容：序 (pp.[1-2])、目次 (pp.1-2)、人物としてのトルストイ伯  
一 生涯 (pp.1-40)、二 性行 (pp.41-50)、三 逸話 (pp.51-74)、  
四 村莊生活 (pp.75-84)、五 村莊の一日 (pp.85-99)、六 伯夫人  
(pp.100-103)、七 自由小學校 (pp.104-108)、八 トルストイ  
村 (pp.109-113)、九 聲望 (pp.114-115)、十 隱遁 (pp.116-123)、  
十一 臨終 (pp.124-129)、十二 葬儀 (pp.130-133)、文豪として  
のトルストイ伯 一 文壇の地位 (pp.135-141)、二 杜伯と現代文  
學 (pp.142-153)、三『戦争と平和』(pp.154-176)、四『アンナ・カ  
レニナ』(pp.177-183)、五 態度、文章 (pp.184-187)、六 杜伯と  
内外文豪 (pp.188-194)、附録一 近什二篇 (pp.195-212)、二 寓  
意物語 (pp.213-221)、三 書簡三則 (pp.222-227)、四 杜伯金  
言抄 (pp.228-232)、五 著作年表 (pp.233-239)、六 著作統計  
(千九百八年の調査) (pp.240-242)

(訳) 「狼」ボリス・ザイツェフ作

文章世界 6 卷 1 号, 106-113 (1911.1.1)

のち、『心の扉』東京 海外文藝社 1913.6.5 に収録

- \* 「『黒き假面』に就いて」

露西亞文學 2 年 1 号, 1-4 (1911.1.1)

- \* 「露西亞現今の詩壇を論ず」

早稻田文學 (第二次) 62 号, 179-192 (1911.1.1)

(談) 「杜翁の後の事ども 隱遁の動機に就いて (國民文學欄)」

國民新聞 6772 号, (1911.1.13)

(談) 「杜翁の後の事ども 杜翁と其妹との會見 (國民文學欄)」

國民新聞 6773 号, (1911.1.14)

- (談) 「杜翁の後の事ども 未刊行の作物に就て (國民文學欄)」  
國民新聞 6774 号, (1911.1.15)
- (談) 「杜翁の後の事ども (完) 遺産處分と遺著出版 (國民文學欄)」  
國民新聞 6776 号, (1911.1.17)
- \* 「露國のモダニスト (一)」  
讀賣新聞 (朝) 12105 号, 5 (1911.1.26)
- \* 「露國のモダニスト (二)」  
讀賣新聞 (朝) 12106 号, 5 (1911.1.27)
- \* 「露國のモダニスト (三・完)」  
讀賣新聞 (朝) 12107 号, 5 (1911.1.28)
- \* 「喜劇「検査官」に就て (日曜附録)」  
讀賣新聞 (朝) 12108 号, 6 (1911.1.29)
- \* 「謎の如き偉人の悲劇的臨終 (偉人トルストイ)」  
學生文藝 2 卷 2 号, 15-20 (1911.2.1)
- \* 「露西亞文學講話 (一)」  
學生文藝 2 卷 2 号, 83-88 (1911.2.1)  
内容：緒論
- \* 「レオニード・アンドレーエフ論」  
太陽 17 卷 2 号, 64-74 (1911.2.1)
- (談) 「メレジュコフスキイ」  
文章世界 6 卷 3 号, 85-87 (1911.2.1)
- (訳) 「バリモントの詩」 早稻田文學 (第二次) 63 号, 12-14 (1911.2.1)  
内容：一 雨、二 夜の海邊、三 自己肯定
- \* 「序文」(青木精一編著『杜翁大觀』東京 隆文館 1911.2.25 所収  
pp.15-16)  
(注) 奥付の書名：『トルストイ大觀』
- \* 「露西亞文學講話 (二) (雜録)」  
學生文藝 2 卷 3 号, 44-50 (1911.3.1)  
内容：露西亞國民文學の成立
- \* 「アンドレーエフの作風」

新潮 14 卷 3 号, 13-17 (1911.3.1)

\* 「露西亞文壇に於ける女流作家」

文章世界 6 卷 4 号, 116-123 (1911.3.1)

\* 「チーホフとトルストイ」

露西亞文學 2 年 3 号, 82-87 (1911.3.1)

(訳) 「ブリュソフの詩」 早稻田文學 (第二次) 64 号, 57-59 (1911.3.1)

内容：一 自由の歌、二 短刀、三 拷問、四、ユルギス・バルツ  
ルシャイティスに

(談) 「トルストイ家の争 裁判沙汰に及ばんとす (一) (國民文學欄)」

國民新聞 6827 号, (1911.3.10)

(談) 「トルストイ家の争 裁判沙汰に及ばんとす (二) (國民文學欄)」

國民新聞 6828 号, (1911.3.11)

(談) 「トルストイ家の争 裁判沙汰に及ばんとす (三・完) (國民文學欄)」

國民新聞 6829 号, (1911.3.12)

\* 「二つの畫 (日曜附録)」

讀賣新聞 (朝) 12164 号, 6 (1911.3.26)

\* 「露西亞文學講話 (三) (雜録)」

學生文藝 2 卷 4 号, 67-74 (1911.4.1)

内容：千八百四十年代

(談) 「ロシア文學の日本に迎へらるゝ所以—ロシアと日本—ロシア文學の特  
質」

新潮 14 卷 4 号, 88-91 (1911.4.1)

\* 「三月はじめ (傍觀者の日記)」

早稻田文學 (第二次) 65 号, 174-176 (1911.4.1)

\* 「露西亞文學講話 (四) (雜録)」

學生文藝 2 卷 5 号, 67-74 (1911.5.1)

内容：暗黒時代と光明時代

(注)「吾人は次回の講話に於てこの光明時代の代表作家二三に就て  
愚見を述べやうと思ふ」と末尾にあるが、次号以降の所蔵館は不明  
である。

\* 「余が宗教的生活の告白」

成功 20 巻 5 号, 80-83 (1911.5.1)

内容：余が信仰の徑路、神學校在學時代、余が信仰の變遷、宗教的生活の幸福、歡樂と悲哀

(訳) 『六人集』[2 版] 東京 初山書店 1911.5.20 14, 4, 338, [1] p 19cm

内容：序文 (エス・エリセーエフ著 pp.1-14)、自序 (pp.1-4)、夜の叫 (バリモント pp.1-33)、靜かな曙 (ザイツェフ pp.35-64)、閑人 (クープリン pp.65-105)、かくれんぼ (ソロゲーブ pp.107-142)、妻 (アルツイバーセフ pp.143-207)、霧 (アンドレーフ pp.209-338)、目次 (p. [1])

(注) 各収録作品の始まりには頁付の無い頁があり、作品名・著者名の頁、その裏は各著者の紹介の頁となっている。明治 44 年 9 月 20 日再版による。

\* 「批評と感想 (上) (文藝)」

時事新報 9950 号, 1 (1911.5.31)

\* 「氣分の文學と事實の文學 (アンドレーエフの藝術を論ず)」

早稻田文學 (第二次) 67 号, 1-18 (1911.6.1)

\* 「批評と感想 (中) (文藝)」

時事新報 9952 号, 1 (1911.6.2)

\* 「批評と感想 (下) (文藝)」

時事新報 9953 号, 1 (1911.6.3)

(未見) 「露國の文士」 大阪新報

(注) 早稻田文學 (第二次) 69 号の「新聞雜誌文學一覽 (自六月十五日至七月十五日)」に記載されているが所蔵館不明のため未見。

(訳) 「メレヂユコーフスキーの詩」

早稻田文學 (第二次) 68 号, 263-264 (1911.7.1)

\* 「放浪趣味の文藝 (上) (文藝)」

時事新報 9987 号, 1 (1911.7.7)

(談) 「杜伯邸宅の買上」 讀賣新聞 (朝) 12267 号, 5 (1911.7.7)

\* 「放浪趣味の文藝 (下) (文藝)」

時事新報 9988 号, 1 (1911.7.8)

（談） 「露西亞文壇近事（一）（國民文學欄）」

國民新聞 6951 号, (1911.7.12)

内容：トルストイの後継者

（談） 「露西亞文壇近事（二）（國民文學欄）」

國民新聞 6952 号, (1911.7.13)

内容：ネオ、リアリズム興る

（訳） 「夜」 アルツィバーセフ作

早稲田文學（第二次） 69 号, 104-124 (1911.8.1)

のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録

\* 「批評及感想（上）（文藝）」

時事新報 10023 号, 1 (1911.8.12)

\* 「批評及感想（中）（文藝）」

時事新報 10024 号, 1 (1911.8.13)

\* 「批評及感想（下）（文藝）」

時事新報 10025 号, 1 (1911.8.14)

（談） 「南國の夏（第一、芭蕉の山）（涼味）」

やまと新聞 8096 号, 1 (1911.8.17)

（談） 「南國の夏（其二、白砂青松）（涼味）」

やまと新聞 8098 号, 1 (1911.8.19)

（訳） 「ギッピウス女史の詩」

早稲田文學（第二次） 70 号, 44-47 (1911.9.1)

内容：歌、夜の花、中間、水蛭

（未見） 「露國勞働者と文藝」 大阪朝日新聞

（注）早稲田文學（第二次） 71 号の「新聞雜誌文學一覽（自八月十五日至九月十四日）」に「國露勞働者と文藝」と記載され調査したが不明のため未見。

\* 「印象と感想（上）（文藝）」

やまと新聞 8123 号, 1 (1911.9.13)

\* 「印象と感想（中）（文藝）」

やまと新聞 8124 号, 1 (1911.9.14)

- \* 「印象と感想（下）（文藝）」  
やまと新聞 8125号, 1 (1911.9.15)
- \* 「クープリンと其作（上）（文藝）」  
時事新報 10070号, 1 (1911.9.28)
- \* 「クープリンと其作（中）（文藝）」  
時事新報 10071号, 1 (1911.9.29)
- \* 「クープリンと其作（下）（文藝）」  
時事新報 10072号, 1 (1911.9.30)
- \* 「露西亞文壇に於ける新寫實主義－アレキセイ・トルストイの作物」  
新潮 15巻4号, 20-24 (1911.10.1)
- (訳) 「毒の園」 ソログーブ作  
新潮 15巻4号, 41-68 (1911.10.1)  
のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録
- (訳) 「囁言」 クープリン作  
文章世界 6巻13号, 51-61 (1911.10.1)  
のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録
- \* 「クープリン論」 早稲田文學（第二次）71号, 282-291 (1911.10.1)
- \* 「悲劇としての露西亞文學（上）（文藝）」  
讀賣新聞（朝）12380号, 5 (1911.10.28)
- (訳) 「ソログーブの詩」 早稲田文學（第二次）72号, 47-49 (1911.11.1)
- \* 「悲劇としての露西亞文學（下）（文藝）」  
讀賣新聞（朝）12385号, 5 (1911.11.2)
- \* 「杜翁の『生きた死骸』（上）（文藝）」  
時事新報 10116号, 1 (1911.11.13)
- \* 「杜翁の『生きた死骸』（中）（文藝）」  
時事新報 10117号, 1 (1911.11.14)
- \* 「杜翁の『生きた死骸』（下）（文藝）」  
時事新報 10118号, 1 (1911.11.15)
- \* 「詩人ブーニン（上）（文藝）」  
讀賣新聞（朝）12398号, 5 (1911.11.15)

- \* 「露國文壇近事（一）（文藝）」  
やまと新聞 8187号,1 (1911.11.16)
- \* 「詩人ブーニン（下）（文藝）」  
讀賣新聞（朝）12399号,5 (1911.11.16)
- \* 「露國文壇近事（二）（文藝）」  
やまと新聞 8188号,1 (1911.11.17)
- \* 「露國文壇近事（三）（文藝）」  
やまと新聞 8189号,1 (1911.11.18)
- (談) 「杜伯の一周年」 讀賣新聞（朝）12402号,5 (1911.11.19)
- \* 「書簡に現はれたる杜翁の内生活（日曜附録）」  
讀賣新聞（朝）12402号,6 (1911.11.19)
- \* 「露國文壇近事（四）（文藝）」  
やまと新聞 8191号,1 (1911.11.20)
- \* 「露國文壇近事（五）（文藝）」  
やまと新聞 8192号,1 (1911.11.21)
- \* 「書簡に現はれし杜翁（下）（日曜附録）」  
讀賣新聞（朝）12409号,7 (1911.11.26)
- \* 「露國現代詩の傾向（附録）」  
劇と詩 15号,115-119 (1911.12.1)
- \* 『日本百科大辭典 第五卷』東京 三省堂書店 1911.12.5 1468p  
27cm  
執筆項目：ジュコーフスキ (p.646)

#### 明治 45 (1912) 年・大正元年

- (訳) 「ベールイの詩」 朱欒（ザムボア）（第一次）2巻1号,101-108  
(1912.1.1)  
内容：荒廢の家、恐いことはない、静かな休息
- \* 「露西亞文學と不可思議」  
無名通信 4巻1号,69-72 (1912.1.1)  
内容：（一）迷信的傾向を有する國民、（二）異教徒的に生活した時



代、(三) 基督教的迷信、(四) 近代文學は如何

(訳) 「ブーニンの詩」 早稲田文學 (第二次) 74 号, 219-221 (1912.1.1)

\* 「杜翁最後の傑作 (一) (文藝)」

時事新報 10186 号, 1 (1912.1.22)

\* 「杜翁最後の傑作 (二) (文藝)」

時事新報 10187 号, 1 (1912.1.23)

\* 「杜翁最後の傑作 (三・完) (文藝)」

時事新報 10188 号, 1 (1912.1.24)

(訳) 「譯詩七篇 (バリモントより)」

劇と詩 17 号, 33-38 (1912.2.1)

(訳) 「死」 ザイツェフ作 新小説 17 年 2 卷, 21-36 (1912.2.1)

のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録

\* 「露西亞文壇に於けるドフトエブスキイの位地と其の特色」

新潮 16 卷 2 号, 37-43 (1912.2.1)

(談) 「研究と翻譯との十ヶ年」

文章世界 7 卷 2 号, 114-118 (1912.2.1)

(訳) 「嫉妬」 バリモント作

新潮 16 卷 3 号, 48-65 (1912.3.1)

のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録

\* 「チャーホフの藝術を論ず」

帝國文學 18 卷 3 号 (208 号), 1-12 (1912.3.1)

\* 「杜翁一周年後 (上) (文藝)」

時事新報, (1912.3.2)

\* 「杜翁一周年後 (中) (文藝)」

時事新報, (1912.3.3)

\* 「杜翁一周年後 (下) (文藝)」

時事新報, (1912.3.4)

\* 「カーメンスキーの「白夜」(上) (文藝評論)」

やまと新聞 8320 号, 1 (1911.3.29)

\* 「ニコライ師の性格 (日曜附録)」

- 讀賣新聞（朝）12534号, 6（1912.3.31）
- \* 「新寫實主義の代表作家」
- 文章世界 7巻5号, 8-15（1912.4.1）
- \* 「カーメンスキーの「白夜」（下）（文藝評論）」
- やまと新聞 8323号, 1（1911.4.1）
- （訳） 「地下室」 アンドレーエフ作
- 早稲田文學（第二次）77号, 199-217（1912.4.1）
- のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録
- \* 「人、作家、主人公（上）（文藝欄）」
- 讀賣新聞（朝）12543号, 5（1912.4.9）
- \* 「人、作家、主人公（中）（文藝欄）」
- 讀賣新聞（朝）12544号, 5（1912.4.10）
- \* 「人、作家、主人公（下）（文藝欄）」
- 讀賣新聞（朝）12545号, 5（1912.4.11）
- \* 「現代露西亞文學（一）（國民文學欄）」
- 國民新聞 7233号,（1912.4.21）
- \* 「現代露西亞文學（二）（國民文學欄）」
- 國民新聞 7238号,（1912.4.26）
- \* 「強い印象を残した作品（予が文藝委員ならば?）」[アンケート]
- 新潮 16巻5号, 53-54（1912.5.1）
- （訳） 「譯詩四篇（露國詩人ミンスキーより）」
- 北方文學 1年1号, 55-59（1912.5.1）
- （訳） 「白夜」 アナトリー・カアメンスキイ作
- 三田文學 3巻5号, 83-113（1912.5.1）
- のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録
- \* 「現代露西亞文學（三）（國民文學欄）」
- 國民新聞 7249号,（1912.5.7）
- \* 「現代露西亞文學（四）（國民文學欄）」
- 國民新聞 7250号,（1912.5.8）
- \* 「現代露西亞文學（五・完）（國民文學欄）」

國民新聞 7251 号, (1912.5.9)

(訳) 「三奇人」アレキセイ・トルストイ作

文章世界 7 卷 7 号, 222-239 (1912.5.15)

のち、『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 に収録

(訳) 「譯詩二篇」クーズミン作、ブリュースフ作

詩歌 2 卷 6 号, 4-6 (1912.6.1)

\* 「徹底せる寫實の作品—クープリンの『決闘』(泰西代表作の解剖)」

新潮 16 卷 6 号, 2-10 (1912.6.1)

(訳) 『露國新作家集 毒の園』東京 新潮社 1912.6.25 13, [1], 320p  
20cm

内容：序に代へて (pp.1-13)、目次 (p. [1])、毒の園 (フョードル・ソログーブ pp.1-60)、地下室 (レオニード・アンドレーエフ pp.61-96)、夜 (ミハイル・アルツイバーセフ pp.97-135)、白夜 (アナトリー・カアメンスキイ pp.137-186)、三奇人 (アレキセイ・トルストイ pp.187-226)、嫉妬 (コンスタンチン・バリモント pp.227-260)、囁言 (アレキサンドル・クープリン pp.261-285)、死 (ボリス・ザイツェフ pp.287-319)

\* 「『少年の笛』合評」(昇曙夢、相馬御風、田中介二、中村星湖)

新潮 17 卷 1 号, 80-86 (1912.7.1)

(注) 昇曙夢の部分は pp.80-82

\* 「現代露文學の大勢 (一～二)」

學鐙 16 年 7 号, 1-4 (1912.7.18)

\* 『日本百科大辭典 第六卷』東京 三省堂書店 1912.8.24 1470p  
27cm

執筆項目：チェーホフ (p.1204)、チェルヌイシェーフスキー (p.1209)

(談) 「『白夜』の作者に就いて」

秀才文壇 12 卷 9 号, 2-8 (1912.9.1)

\* 「現代露文學の大勢 (三～六)」

學鐙 16 年 9 号, 1-5 (1912.9.18)

- \* 「現代露文學の大勢（七～十一）」  
學鐙 16 年 10 号, 1-5 (1912.10.18)
- (談) 「邪教徒を破門せよ 露國主教の建白・ゴルキーと官憲」  
讀賣新聞（朝）12739 号, 5 (1912.10.22)
- \* 「二葉亭全集第三卷を読む（上）」  
大阪朝日新聞 11032 号, 4 (1912.10.31)
- \* 「露國近代思潮とゴーリキイの藝術」  
新潮 17 卷 5 号, 40-59 (1912.11.1)
- \* 「坪内逍遙氏（明治の文壇及び劇壇に於て最も偉大と認めたる人物事業作品）」〔アンケート〕  
新潮 17 卷 5 号, 89 (1912.11.1)
- \* 「二葉亭全集第三卷を読む（下）」  
大阪朝日新聞 11034 号, 8 (1912.11.2)
- \* 「現代露西亞文藝思潮（一）」昇直隆  
正教時報 1 卷 1 号, 21-25 (1912.11.10)
- \* 「現代露文學の大勢（十二～十四・完）」  
學鐙 16 年 11 号, 10-13 (1912.11.18)
- \* 「現代露西亞文藝思潮（二）」昇直隆  
正教時報 1 卷 2 号, 21-27 (1912.11.20)
- (訳) 『決闘・生活の河』（近代西洋文藝叢書 第一冊）アレキサンドル・  
クープリン著 東京 博文館 1912.12.1 12, 2, 2, 562p 図版 2 枚  
23cm  
内容：〔序〕著者の略傳、著者の地位、『決闘』の價值、附篇『生活  
の河』（昇曙夢著 pp.1-12）、凡例（pp.1-2）、目次（pp.1-2）、決闘  
（pp.1-512）、生活の河（pp.513-562）
- \* 「〔決闘〕の作者（上）（文藝）」  
時事新報 10501 号, (1912.12.2)
- \* 「〔決闘〕の作者（下）（文藝）」  
時事新報 10502 号, (1912.12.3)
- \* 「現代露西亞文藝思潮（三）」昇直隆

正教時報 1 卷 3 号, 24-29 (1912.12.5)

\* 「『決闘』に就いて (上) (文藝欄)」

讀賣新聞 (朝) 12788 号, 5 (1912.12.10)

\* 「『決闘』に就いて (下) (文藝欄)」

讀賣新聞 (朝) 12789 号, 5 (1912.12.11)

(談) 「露文壇の近事 ト伯の二問題」

讀賣新聞 (朝) 12796 号, 5 (1912.12.18)

\* 「現代露西亞文藝思潮 (四・完)」昇直隆

正教時報 1 卷 4 号, 26-33 (1912.12.20)

(未見) 「露國文壇近息」 やまと新聞

(注) 早稻田文學 (第二次) 87 号の「新聞雜誌文學一覽 (自十二月十五日 至一月十五日)」に記載されているが、12 月は調査したが記事不明のため未見。